

めぐみ
山の福
ずかん

磐梯・吾妻・安達太良・猪苗代

インタープリテーション全体計画

～もっと好きになる、もっと伝えたい、私たちの物語～



はじめに

磐梯朝日国立公園「磐梯吾妻・猪苗代地域」は、火山活動が作り上げた雄大な自然と、その恩恵の中で育まれた豊かな歴史・文化が共存する、世界に誇るべき価値を持つ地域です。四季折々の景観や独自の地形、そして自然とともに営まれてきた人々の暮らし。これらすべてが、私たちが守り、次世代へとつなぐべき「地域の宝物」にほかなりません。

この地域ではこれまで、地域に関わる一人ひとりのたゆまぬ努力によって地域の魅力が磨き上げられ、訪れる人々に多くの感動を届けてきました。しかし、身近にある豊かな自然や文化は、あまりに当たり前な存在であるがゆえに、その価値や奥に潜む魅力を見落としてしまいがちです。

本冊子は、多様な立場で地域に関わる私たちが、足元にある唯一無二の価値を再発見し、地域を語るための『共通の物語』を分かち合いながら、それぞれの言葉で地域の魅力を訪れる人々に伝えていくための道標として作成しました。作成にあたっては、地域で活動する観光事業者やガイド、行政、住民など、様々な立場の皆様との対話を重ねてきました。ワークショップを通じて、日頃当たり前に目にしているこの地域の価値や魅力を改めて見つめ直し、「訪れる人々に本当に体験してほしい、ここならではの感動とは何か」を共に語り合う中で、この地が持つ奥深い物語を一つひとつ紡ぎ出しています。

なお、本地域でのインタープリテーション全体計画の作成は、今回が初めての試みです。そのため、情報が不足している点や、認識の至らない点も含まれているかもしれません。本書を手にとられた皆様とともに、時代や新たな発見に合わせてより良いものへレベルアップさせていきたいと考えています。内容に関するお気づきの点や修正のご提案がございましたら、環境省裏磐梯自然保護官事務所（0241-32-2221、RO-URABANDAI@env.go.jp）までぜひお寄せください。

この道標を手し、まずは私たちが地域の価値・魅力を再発見し、この地をもっと好きになることから始めましょう。その喜びが、訪れる人々への最高の贈り物に繋がり、未来を切り拓く力に変わることを願っています。

磐梯・吾妻・安達太良・猪苗代
インタープリテーション全体計画

めぐみ
山の福
ずかん

雪解け水や噴火によって生まれた地形など、
山々がもたらす多様な恵みは、
人々や生き物の暮らしを育んできました。
また、噴火で失われた森への植樹や自然保護の取り組みなど、
人々の努力によってもこの地域には多くの「福」がもたらされています。

本冊子の題名である「山の福図鑑」には、
二つの大きな願いを込めています。
一つは、“山”形県と“福”島県にまたがる広大な国立公園の
絆を象徴すること。
もう一つは、この地のあらゆる魅力の根源が
「山からもたらされた恵み(福)」にあることを伝えたいという想いです。

土地の成り立ちから今の暮らしに至るまでの価値を、
豊富な図や写真とともに整理し、
誰もが「地元の自慢」を見つけられる一冊としました。

目次

はじめに	01
山の福ずかんについて	02
目次／案内	03
山の福ずかんの使い方	05
地域価値の根幹にあるものは？	07
インタープリテーション全体計画とは	09
全エリアMAP	11
協力	106

魅力あふれるエリア

全体エリア	12
01 生ける地球の鼓動が刻んだ造形	13
02 火山の記憶を映し、大地を潤す恵みの水	14
03 地球の胎動のなかで紡がれるいのち	15
04 すべて巡りたい、ここは、温泉の博物館	16
05 自然を守り育て生み出した、豊かな食文化	17
06 神の嶺から街道へ、自然と人が交錯する	18
07 雪と火山の歳月が磨き上げた暮らしの彩り	19
08 感性を研ぎ澄ます、四季のアクティビティの聖地	20
関連メディア	21

磐梯エリア	22
-------	----

大噴火の遺産 自然の芸術

01 磐梯山に表と裏の顔を与えた、130年前の噴火	23
02 噴火で生まれた湖沼群	25
03 五色沼の色を決めるのは空？風？それともコケ？	27

火山が育む恵みと試練

04 磐梯の兄弟火山が育んだ名水	29
05 2度の噴火が裏磐梯の変化に富む生態系を作った	31
06 大噴火で失われた記憶と再生 磐梯山が育む癒やしの温泉地	33

磐梯山と共に生きる人々の歴史と文化

07 神の山としての磐梯山 神仏融合が生み出した地域文化	35
08 火山の脅威を乗り越えて命を守り、森を甦らせた人々	37
09 地下に眠る古の海水が会津山塩となり甦る 復活した伝統の山塩作り	39

火山・湖沼の国に飛び込む

10 水面を漕ぎ雪原を駆ける 磐梯二つの季節	41
関連メディア	43

吾妻エリア	44
躍動する大地といのち	
01 噴煙の鼓動、碧き瞳の吾妻連峰	45
02 灼ける五感「日本のアリゾナ」?	47
恵みあふれる吾妻連峰	
03 吾妻のみ!白き猿 吾妻だからこそ!五葉松	49
04 この地で時間がゆっくり流れる理由とは?	51
05 ふくしま生まれふくしま醸し オールふくしまの酒	53
06 四季の恵みあふれる福島 果物がおいしいわけは?	55
火山の大地で紡がれる人々の暮らし	
07 隠れ里に立ち上る火縄銃と湯の煙	57
08 こけしの丸い顔に宿る先祖伝来の職人技	59
気軽と本格さ、どちらも叶えられるアクティビティ	
09 天の川がスマホの距離にある天文台	61
10 ロープウェイで気軽に山頂 でもアクティビティは本格派	63
関連メディア	65
安達太良エリア	66
火山の歴史が織りなす風景	
01 赤茶の地面に刻まれた噴火の歴史	67
02 静まり返る月面 沼ノ平	69
03 花の百名山 安達太良山 福島の県花ここにあり	71
安達太良の火山を味わう	
04 良泉を求めて山の中まで	73
05 温泉を支える「湯守り」という生業	75
06 東北で一番登られる山の理由	77
麓を潤す、ふるさとの山の恵み	
07 安達太良山の風と水がつくる酒	79
08 二本松の礎を作った二合田用水は、今なお水田を潤し続ける	81
09 時代を越えて人の心に描かれ続ける山	83
関連メディア	85
猪苗代エリア	86
火山が生んだ命の湖	
01 火山と断層が生んだ天鏡の湖	87
02 命あふれる楽園の湿地	89
めぐる水、めぐる恵み	
03 安積疎水が拓いた安積原野と近代化	91
04 注ぐ前も、注いだ後も、地域を潤す「恵みの水」	93
湖とともに紡がれた暮らしと文化	
05 会津に続く街道と謎に包まれたたたら製鉄の歴史	95
06 猪苗代に受け継がれる祈りと復興の光	97
天鏡の湖で出会う感動と学び	
07 視点と四季で楽しむ変化に富んだ猪苗代湖	99
08 身体で感じる湖水と吹き渡る風	101
09 美しい水を取り戻す猪苗代湖の挑戦	103
関連メディア	105

Q 「山の福ずかん」ってどんな冊子？

A その土地ならではの感動と学びを観光客に提供したり、地域関係者全員で共有したりするためにまとめたもの。

全員主役/ みんなで！ インター プリテーション

地域の人



良さを伝える道しるべ

活用 当たり前だと思っていた地域の風景。その本当の価値に気づき、自信を持って次の世代へ語り継ぐために。

メリット 地域の良さを再発見し、誇りを持って「私たちのまち」を語れるようになります。

ガイド



「伝わる」プログラムづくり

活用 表面的な解説で終わらせない。地域の深い物語をゲストの興味に合わせて組み立て、心に響く体験をつくるために。

メリット 確かなストーリーに基づいた、満足度の高い「一生モノの案内」が提供できます。

伝統工芸の担い手



表現のヒント

活用 技の凄さだけでなく、その裏にある歴史や精神性を伝える。使い手と深くつながり、新たな共感を生むために。

メリット 作品に宿る物語を言葉にすることで、使い手の心を動かし、新たな顧客層を広げます。

学校・教育機関



生きた教科書

活用 地域の歴史や自然を最高の教材に。子どもたちが「自分のふるさとが大好きだ」と胸を張れる学びをつくるために。

メリット 地域の本質を分かりやすく伝え、子どもたちの郷土愛と探究心をぐんぐん育てます。

一次産業の担い手



食を通した対話の道具

活用 自然環境や受け継がれてきた知恵を、消費者に届ける。食することの尊さを多角的に伝えるコミュニケーションのために。

メリット 恵みの尊さを伝えることで、農水産物の付加価値と生産者への信頼が高まります。

酒蔵・蔵元



ストーリーブック

活用 水、米、気候、歴史。酒の一滴に込められた地域の風土を、ロマンたっぷりに語り、深く味わってもらうために。

メリット 風土が醸すロマンを語ることで、一杯のお酒に対する感動と愛着を創り出します。

飲食店・料理人

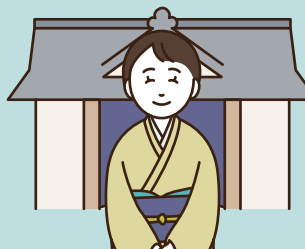


一皿の演出案

活用 地元の旬と風土を一皿に込める。料理の背景を伝えることで、ゲストが地域の恵みを五感で楽しむ演出のために。

メリット 食材の背景にある物語を添えることで、地域を深く味わう特別な食体験になります。

宿泊施設



おもてなしの源泉

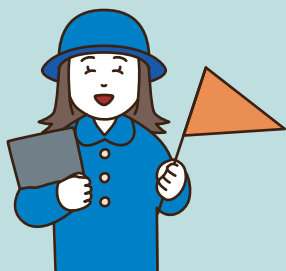
活用 滞在那のものを地域文化の体験に。館内のしつらえや散策の提案に、地域らしさを一貫して取り入れるために。

メリット 「ここならではの」魅力が滞在全体に貫かれ、お客様の満足度と独自性が高まります。

解説

「山の福ずかん」は「インタープリテーション全体計画」の冊子です。「インタープリテーション全体計画」とは、地域の歴史やストーリー、魅力などをわかりやすい言葉や体験活動を通して伝える活動のこと。暮らす人・働く人・学ぶ人などみんなで使うことができます。

観光協会・案内所



案内のモノサシ

活用 パラバラだった情報を一つのメッセージに。パンフレットやSNSで、地域全体の魅力を一貫して発信するために。

メリット 地域の個性がくっきり伝わり、一貫したメッセージで「まちのファン」を増やせます。

お土産物店



おもてなしのヒント

活用 「モノ」を売るだけでなく、地域の物語という「思い出」を届ける。商品の背景にあるこだわりを接客に活かすために。

メリット 商品に物語を添えることで、ただの買い物が「旅の素敵な思い出」に変わります。

行政の担当者



まちづくり

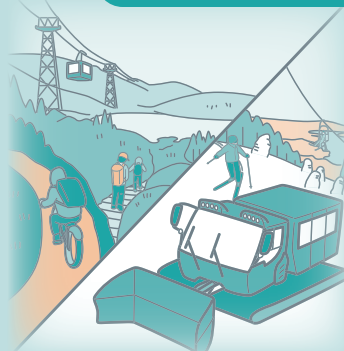
活用 地域の資源を一つにまとめ、ビジョンを共有する。アイデンティティを大切に、持続可能なまちづくりの判断のために。

メリット 地域の個性を軸にした、一貫性のある「ぶれない」まちづくりが進められます。

磐梯エリア



吾妻エリア



猪苗代エリア



安達太良エリア



来なければ味わえなかった感動体験
訪れた土地を
より楽しんで、より好きになる

観光客や他地域の方による…

- SNSでの発信／口コミ
- 魅力を感じた地へ再来訪
- お土産などで他地域の方にお裾分け

Q 地域の価値の根幹にあるものは？

A 磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力。
その根幹にあるのは「土地の成り立ち」です。

解説

火山が作り出した独特な地形と、そこに息づく豊かな自然環境。この確かな土台が私たちに計り知れない恵みを与え、独自の暮らしを育んできました。

土地の成り立ち

地域の根幹であり、すべてのストーリーが始まる基礎。

土地に息づく
自然の営み

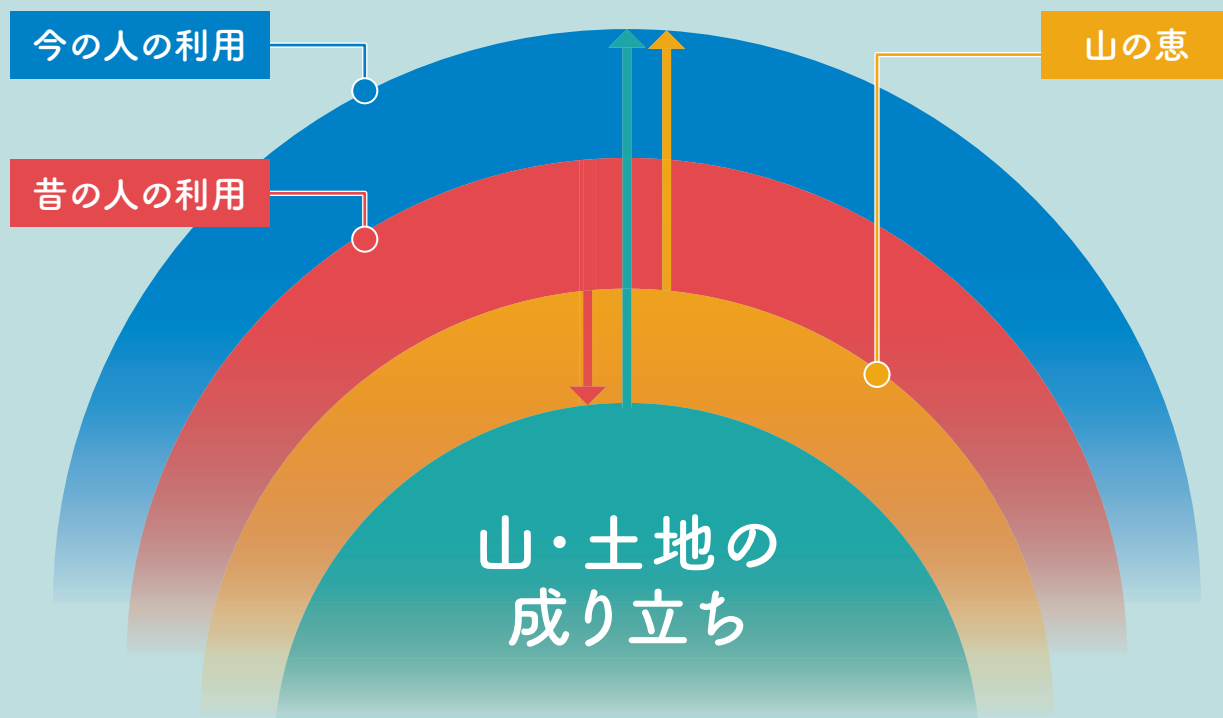
この土地ならではの生態系と、多様な生きものたちの物語。

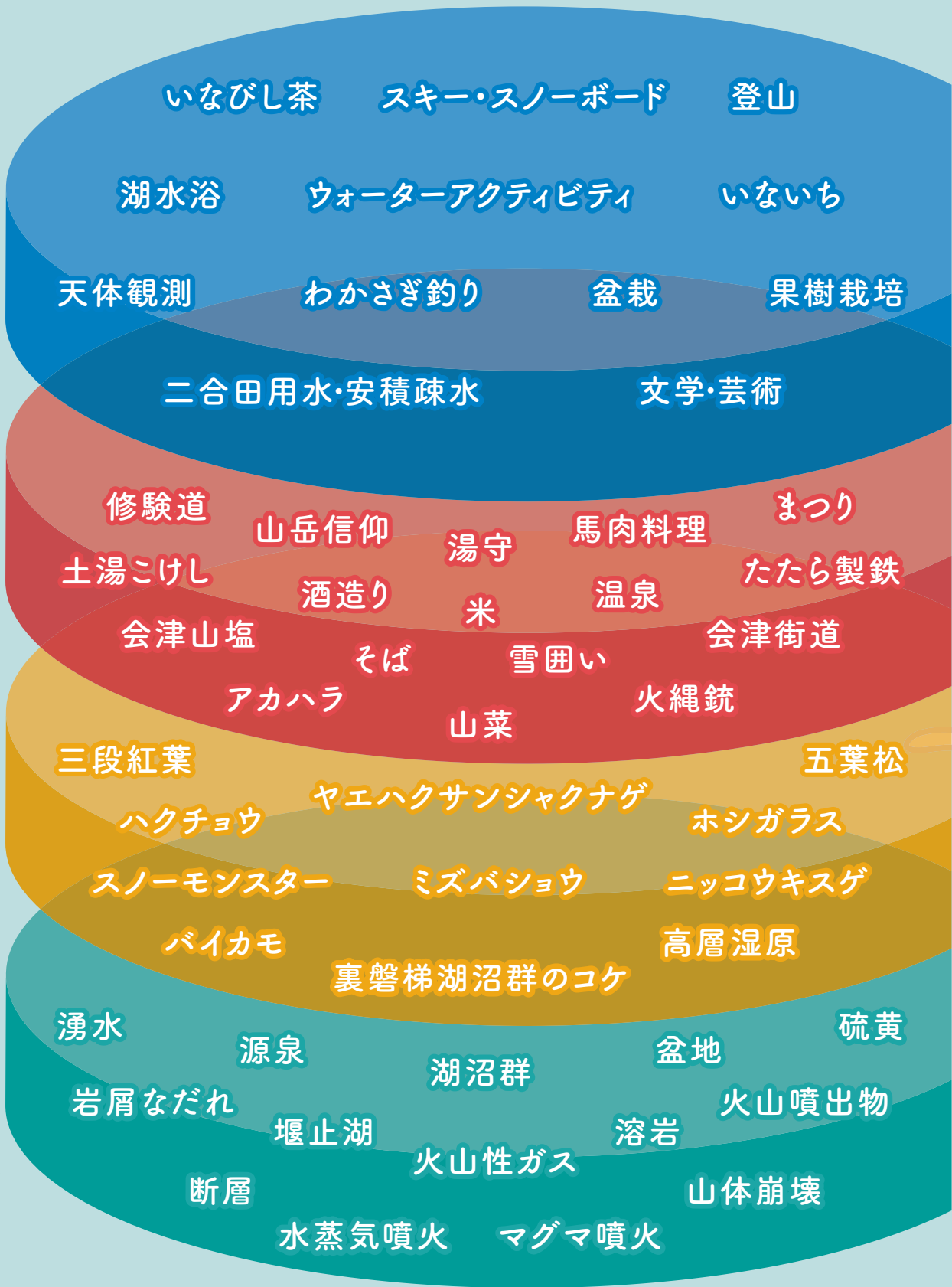
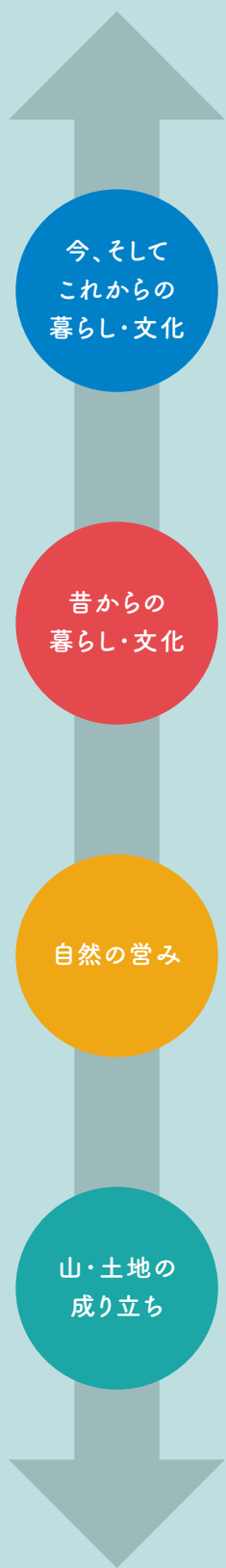
自然の恵みを享受する
暮らし・文化

先人たちが自然に手を入れ、その恵みを最大化し進化させてきた知恵。

今、そしてこれからの
暮らし・文化

アクティビティや食を通じて恵みを楽しみ、次世代へと守り継ぐ未来。





本冊子では、この地域の各地の地形の成り立ち、利用のされ方をもとに、4つの地区に分け、「大地の物語」を起点に、自然と人が共に歩んできた軌跡を紐解いていきます。

Q インタープリテーション 全体計画とは？

地域 みんなで編む「心の動かし方」の設計図

解説 1

インタープリテーション、 それは「心を動かす伝え方」

インタープリテーションとは、一言でいえば「訪れる人の心を動かす伝え方」のことです。

単に歴史の年号や植物の名前を「説明」するのではなく、その裏側にある物語や、現代の私たちの暮らしとの繋がりを伝えることで、「へえ〜!」という驚きを「大切にしたい」「また来たい」という感動に変えることができます。

解説 2

なぜ「全体」で取り組む必要があるのか？

プロのガイドが直接来訪者に関われる機会のごく一部に限られると言われています。では、多くの来訪者は誰と接しているのでしょうか？

それは移動を支えるタクシーやバスの運転手、食事を提供する飲食店のスタッフ、滞在を支える宿の受付や接客担当、お土産を売る商店の店員、道端で挨拶を交わす農家や地域住民など、地域で暮らし働くみなさんです。

ガイドは地域の魅力を深く伝える重要な担い手ですが、来訪者の体験はそれだけで完結するものではなく、地域のみなさんとの何気ない会話の積み重ねが地域全体の印象を形づくっています。

みなさんから来訪者に語られる内容が異なること自体は自然なことですが、特に大切にしたい地域の魅力やストーリーについて共有して語ることができれば、地域の魅力は的確に伝わっていくのではないのでしょうか。

だからこそ、特定の誰かではなく、地域に関わるみんなで「何を、どう伝えるか」の歩調を合わせる「全体計画」が必要となります。

「インタープリテーション」という言葉を初めて聞く方も多いかもしれません。

直訳すれば「翻訳」や「解釈」ですが、地域づくりにおいてはもっと温かい意味を持っています。

解説
3

計画が目指すゴール

「地域が持続的に潤うサイクル」

「伝え方」を整えることは、単なるサービス向上ではありません。それは地域を守るための「循環」を生み出すことです。



インタープリテーション全体計画のメリット

●心が動く

訪れた人が、地域の本当の価値を知り、ファンになる。

●地域が潤う

応援したい気持ちが、購買や再訪という形で地域経済を支える。

●誇りが 生まれる

住んでいる私たち自身が「ここは良い所だ」と再発見し、守る意欲が湧く。

このサイクルが回ることで、地域の宝物を大切にしながら、次世代へと引き継いでいくことができます。